

さわやかワークセンター

平成 30 年度事業報告

1. 運営方針

- ・ 就労に向け、希望を失わず、1人ひとりが明るくさわやかに作業や訓練に取り組み、自信をもって就労に踏み出し、仕事を続けながら地域で暮らし続ける場と機会を提供します。

2. 職員等配置 (3/31 現在)

職員 10 名・非常勤職員 17 名 合計 27 名

3. 今年度の重点目標に対する取り組み状況

	重点目標	具体的取組の内容	回数・日付	人数	法人重点
1	就労や地域生活の安定を目指して関係機関との連携を強化し「切れ目のない支援」を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労定着支援事業 (10 月より開始) ・ 計画相談面談同席 (さんさん幸陽) ・ 就労促進担当者会参加 ・ 就労移行支援事業所連絡会参加 ・ 就労移行支援新規利用者開拓の取組みとして関係機関との連携 ・ 施設利用希望実習受入 	- 随時 12 回 12 回 随時 10 回	9 名 - 3 名 1 名 - 10 名	1) - - - -
2	持続的 생활が可能な収入 (就労賃金・工賃) の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地ビール製造 (バルコステ用) 作業参加 ・ おおむすび縁市場販売スタート開始 (8/22~) ・ 新規受託作業準備打合せ 	4 回 9 回 随時 -	12 名 3 名 -	1) 2) -
3	生活の場の確保と個別支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループホーム利用希望者への情報提供、サービス利用への支援 ・ 高齢利用者への介護保険サービスの情報提供、サービス利用への支援 	- -	2 名 3 名	1) -
4	飲食事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ バルコステ営業開始 ・ 新規店舗営業準備 ・ 弁当販売開始 (コスモ) (8/23~) ・ D&I プロジェクトを活用しマイクロン社の協力を得てコスモ売上分析を実施 ・ カフェコスモ月平均売上 1,330,545 円 (前年同期 1,217,807 円) 	49 回 随時 48 回 4 回	180 名 - 160 名 -	1) 2) - -
5	公益的取組の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験型学習支援事業『れいんぼう大森』の活動をスタートし、フードバンクからお米を試行的に受け入れ食を通したプログラムに寄与 	12 回	-	2)

	・ 中間的就労受入についての相談 ・ 地域防災パトロール参加	2回 24回		
--	-----------------------------------	-----------	--	--

4. 利用者受入等・平均工賃 *日数・%等は前年同期比

	定員	開所日数	平均利用者数	稼働率		利用率	
就継B型	34人	252日(-1日)	34.1人	100.3%	+0.5%	81.7%	-0.2%
移行	6人	252日(-1日)	5.5人	92.5%	+43%	81.6%	+2.5%
定着	登録者数9人						
就継B型	平均工賃月額		41,664円	前年度	47,577円	-5,913円	
移行	平均工賃月額		35,097円	前年度	21,128円	+13,969円	

※平均利用者数＝全利用者の年間延利用日数÷開所日数（小数点第2位以下切り上げ）。

※稼働率＝年間利用者延べ数÷（定員×開所日数）

※利用率＝年間利用者延べ数÷（在籍数×開所日数）

*就労移行利用者の就労者2名、B型1名

5. 年間行事

4月	花見会(樹林館との合同開催)利用者42名参加
5月	リフレッシュDo(しながわ水族館見学)利用者16名参加
7月	リフレッシュDo(クッキング)利用者15名参加
8月	リフレッシュDo(ボートリング)利用者17名
9月	リフレッシュDo(東京タワー見学)利用者14名
10月	リフレッシュDo(しょうがい者の日のつどい)利用者16名
11月	研修旅行(伊豆方面)利用者38名
12月	リフレッシュDo(クリスマス会)利用者17名
1月	リフレッシュDo(新年会)利用者43名
3月	就労を祝う会 利用者34名

6. 地域公益活動の推進

	実施項目	具体的取組の内容	回数	人数
1	地域まつり	・ 第11回蓮沼ふれあい祭開催(11/17開催)	1回	925名
2	食糧等配達	・ 「コスモス苑」へ月1回食糧等を配達	12回	2名
3	コミュニティスペース運営	・ 食堂をコミュニティスペース「茶和や」として地域へ開放	毎日	-

7. 地域・関係機関連携

	実施項目	具体的内容	回数	人数
1	地域交流・連携	・ 第11回蓮沼ふれあい祭企画、運営(事務局) ・ 地域防災パトロール参加(月2回)	3回 24回	2名 3名

		<ul style="list-style-type: none"> ・西蒲田二・三丁目自治会防災活動拠点会議参加 ・東京工科大学保健学部の生徒が施設見学 ・東京工科大学医療保健学部の学生とスポーツ大会実施(11月) ・蒲田法人会主催のボッチャ交流会実施(12月) 	2回 1回 1回 1回	2名 8名 20名 20名
2	福祉人材受入	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士、相談支援実習受入 ・中学生職場体験受入(志茂田中、蓮沼中) ・大田区社会福祉協議会夏体験ボランティア受入 ・作業補助ボランティア受入 	3回 2回 4回 毎週	3名 6名 4名 2名
3	広報活動等	・「さわやか通信」6回発行(5、7、9、11、1、3月)	6回	-

8. 人材確保・育成とサービスの質向上の取り組み・研修

目的：職場の研修ニーズアセスメントに基づき、専門職としてのキャリア形成を念頭に人材育成

	実施項目	具体的取組の内容	回数	人数
1	OJT・職場内研修	DET(障害平等)研修、OJTチェックシート実施、キャリア形成シート、事例検討会議(支援会議内にて実施)	7回	38名
2	外部研修	社会福祉法人の経営と管理、消費税軽減税率制度説明会、社会福祉施設労務、安全衛生講習会、障害理解啓発研修、ボランティア受入研修、虐待防止研修、カフェスジャパン2018(飲食関連)、安全運転管理者責任者講習、防火、防災管理講習、財務マネジメント初級課程、メンタルヘルスセミナー、東京都社会福祉協議会「初任者研修」、社会福祉施設労務・安全衛生講習会、消費税軽減税率制度説明会、支援決定プロセス研修、施設職員交流研修、食品衛生責任者講習	18回	20名
3	自己研鑽支援	・外部研修の情報提供(研修資料の回覧)	随時	-

9. 権利擁護・虐待防止の取り組み

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	虐待防止	大田区主催「障害者虐待防止研修(従事者管理者向)」 「障害理解啓発研修①」参加	2回	4名
2	権利擁護	・DET(障害平等)研修実施(内部研修)	1回	20名
3	苦情解決	総件数1件(内訳：地域1件) 内容：JSMのお客様から非常勤職員の言葉遣いについて苦情が入り、職員向けにJSM店舗内研修を実施、接客等について改善がみられた。解決済み。	1回	6名
4	個人情報保護	・利用契約時に「個人情報保護規程」および「特定個人情報取扱規程」に関する説明	7回	7人

10. 法令遵守に関する取り組み

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	法令遵守	全体研修での意思決定支援に関する講義を受講。 DET (障害平等) 研修を通して合理的配慮を適切な支援に反映させる検討を実施。	1回 1回	12人 20人
2	「働きやすい職場」づくり	都の「宣言事業所」募集に応募した。 都が策定した「働きやすい福祉の職場ガイドライン」の項目（採用、育成、評価と処遇、ライフ・ワーク・バランス、職場環境・風土の5分野17項目）について、具体的な取組状況を12月に報告申請、1月に都の現地確認を受け、3月から「都福祉人材情報バンクシステム」への情報発信を実現した。		

11. 危機管理

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	防災関連	・ 防災訓練実施 ・ 西蒲田二・三丁目自治会防災活動拠点会議参加	12回 1回	50 2
2	緊急時対応	「緊急時対応マニュアル」により対応することを職員間で共有	随時	

12. その他

平成30年度 第三者評価受審結果よりさらなる改善が望まれる点への取組計画

タイトル1	ミーティングや会議で検討・決定した結果について、支援マニュアル作成につなげていくことが期待される。
内容	日々のミーティングや職員会議等での検討を経て、決定された業務手順や改善された支援方法等をマニュアルに反映するしくみが不十分なため、法人統一の既存の支援マニュアルをもとにしながら、事業所での検討や更新を行う。
タイトル2	事業所が求める人材像と職員の能力向上とを着実に結びつけるために、個別育成計画を策定し学びの機会を確保されたい。
内容	自己評価表、自己申告書、職員キャリア形成シートや個別面談を基に明らかになった研修ニーズがあるが、個別の育成計画策定には至っていない。 職員キャリア形成シートや職員からの研修ニーズの聞き取りをもとに、個別の育成計画を策定、実施する。
タイトル3	定年退職後の利用ニーズが高まる中で、さらに特化したプログラムの作成等に取り組まれたい。
内容	定年退職した後にサービスを開始する利用者が増加してきているため、高齢に特化したプログラムの作成などの必要性がある。 高齢に特化したプログラムの検討と、ご本人の加齢段階に合わせたサービスの使い方(デイサービスとの併用)の推進を行う。